

孤独の高野光正コレクションが語るただいま「やさしき明治」

府中市美術館 2022.05.21～07.10



明治時代、多くの英国人画家が来日して当時の人気絵画であった水彩画を日本に伝えた。彼らは各地の風景や暮らしを描くとともに、優れた日本人画家の作品を本国に持ち帰ったという。本展は、欧米に流出した水彩画を収集した「高野光正」のコレクションから「約300点」を公開している。憧れとともに来日し、不思議な国「日本」をめぐるイギリスからきた画家たちは、得意の本格的な水彩画を日本に伝えた。一方、日本人画家たちは、墨を水彩絵具に毛筆を水彩筆に代えて、明るくてみずみずしく日本を描いた。異国の旅行者たちは、日本の風景や人々に戸惑い感心して日本を描いた作品を求め、次第

に本当の明治がゆっくりと海外へと散っていったとされる。

孤独のコレクターとされる「高野光正」の願いは、「一点でも多く日本の美しさが描かれ、人の心や優しさがある作品を里帰りさせること」という。

みどころ1：明治の穏やかな優しさ

みどころ2：知られざる来日画家たち/日本のみずえの画家たち



ウォルター・ティンデル 《ユダの木と清水寺》

江戸時代の日本では、鎖国下に於いても尚一部での活発な交流があった。特にイギリスとは江戸初期から交流があり、日本の様子は「紀行文」などを通じて伝えられ、不思議な魅力を堪えた島として知られた。

明治時代に入ると、日本の様子を本国に伝えるべく、挿絵を描く画家や写真家なども次々と来日し、イギリスからは多くの画家が来日し水彩画を描いた。



アルフレッド・パーソンズ 《富士山》



笠木治郎吉 《農家の少女たち》